

### 3 みやこ構想の推進状況

京都府では、京都府域の北から南まで、すべての地域が活力ある「みやこ」として輝くことができる地域づくりを進めるため、中期計画及び地域振興計画の主要プロジェクトとして、15の「みやこ構想」を位置づけ、推進している。

以下に、みやこ構想指標の動き、各構想の取組状況や今後の課題を示す。

#### みやこ構想指標

※「指数」は、基準値(原則、2011年度の数値)を1として、2014年度の数値を割戻し指数化したもの

※「分野」は、各地域振興計画の施策の基本方向から主な分野をカテゴリー化したもの

#### 1 丹後・食の王国構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
「丹後あじわい食」提供店数	25事業者 (春の丹後ばらざし月間)	55事業者 (丹後ばらざし、丹後あじわい食と地酒、丹後の酒蔵、長寿弁当・御膳)	2.20	観光誘客
「丹後あじわい食」のメニュー数	25メニュー (春の丹後ばらざし月間)	64メニュー (丹後ばらざし、丹後あじわい食と地酒、丹後の酒蔵、長寿弁当・御膳)	2.56	観光誘客
着地型旅行商品の参加者数	700名	4,534名	6.48	観光誘客
食品関連企業の立地件数	食料品製造業35事業所 (2010年12月31日現在、従業員4人以上) 食品衛生許可施設3,024施設、うち製造業494施設	食料品製造業37事業所 (2012年2月1日現在、従業員4人以上) 食品衛生許可施設2,937施設、うち製造業504施設	1.02	ものづくり振興

#### 2 日本海観光構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
観光入込客数 (丹後+舞鶴市)	約678万人	約769万人	1.13	観光誘客
外国人宿泊客数 (丹後+舞鶴市)	約1万1千人	約2万8千人	2.55	観光誘客
観光消費額 (丹後+舞鶴市)	約185億円	約198億円	1.07	観光誘客
クルーズ船の寄港数 (国外・国内)	4回	15回	3.75	観光誘客

#### 3 京都舞鶴港ランドブリッジ構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
国際フェリー航路数	なし	なし	—	商流・物流拡大
国際海上コンテナ航路数	中国航路週1便 韓国航路週1便	中国航路週1便 韓国航路週2便	1.50	商流・物流拡大
クルーズ船の寄港数	外国船 なし 国内船 4回	外国船 7回 国内船 8回	3.75	観光誘客
コンテナ取扱量	5,902TEU	9,082TEU	1.54	商流・物流拡大
貿易取扱量	1,092万6千トン	1,075万1千トン	0.98	商流・物流拡大

#### 4 北京都ものづくり拠点構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
製造品出荷額等(中丹地域)	4,974億円(2010年)	(2013年末:5,096億円)	—	ものづくり振興
付加価値率(従業員4人以上)	47.1%(2010年)	(2013年末:47.8%)	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)
生産工学(IE)研修等の参加者数	3,311名	4,028名	1.22	人材育成
地域連携ものづくり新製品開発数	5件	3件	0.60	価値創出(商品・コンテンツ開発)
中小ものづくり企業と進出大企業等とのマッチング件数	0件	8件	2.04	ものづくり振興

#### 5 由良川里山回廊構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
スポーツトレイル(SEA TO SUMMIT)の参加者数	2015年度数値を基準値に設定予定	—	—	観光誘客
U・I・Jターン等による定住者数	62人	68人	1.10	地域交流
モデルフォレスト運動への参加者数	337人	534人	1.58	自然・環境・文化
ふるさと保全活動への参加者数	1,029人	678人	0.66	地域交流
地域食材を活用・提供する農家民宿数	9戸	19戸	2.11	観光誘客 地域交流

#### 6 京都丹波「食と森の交流の都」構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
教育体験旅行の年間受入数	5校 340人	28校 1,996人	5.87	地域交流 観光振興
受入れ農家・団体数	20	148	7.40	地域交流 観光振興
農家民宿開設数	4戸	12戸	3.00	地域交流 観光振興

#### 7 新京都伝統工芸ビレッジ構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
京都新光悦村立地企業数	5件	6件	1.20	ものづくり振興
京都新光悦村等に滞在し作品制作を行う作家、民間デザイナー等の人数	3人	3人	1.00	人材育成
京都新光悦村を訪れる交流人口(年間)	14,000人	24,642人	1.76	地域交流

## 8 北山文化環境ゾーン構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
府立植物園年間入園者数	702,011人	887,168人	1.26	自然・環境・文化 観光振興
総合資料館、植物園等における府民向けイベント・シンポジウム・公開講座等の開催回数	191回	241回	1.26	自然・環境・文化

## 9 京都クロスメディアパーク構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
京都発企画の映画・映像事業化支援件数	5件	8件	1.60	価値創出(商品・コンテンツ開発)
KCC等で活動する若手クリエイター数	42名	77名	1.83	人材育成
「KYOTO CMEX」の参加者数	77,179名	64,215名	0.83	観光誘客 地域ブランド化
子ども対象の府民向けワークショップ等の参加者数	305名	846名	2.77	人材育成

## 10 知恵産業首都構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
「知恵の経営」実践モデル企業認証数	73件	141件	1.93	地域ブランド化 価値創出(商品・コンテンツ開発)
「Kyoto Japan」ロゴマーク活用事業所数	0件	189件	2.04	地域ブランド化
元気印認定企業数	105件	177件	1.69	地域ブランド化 価値創出(商品・コンテンツ開発)
経営革新承認企業数	500件	583件	1.17	地域ブランド化

## 11 京都乙訓ダイナミックシティーズ構想

指標	基準値(2014年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
地域内総生産(GRP)	5,650億円 (2011年度)	(2011年度:5,650億円)	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)
製造品出荷額	5,280億円 (2013年末)	(2013年末:5,280億円)	—	ものづくり振興
「竹」関連プロジェクト参加者数	0人	0人	—	地域ブランド化
多目的型の新しいツーリズム参加者数	172人	172人	1.00	観光誘客
観光入込客数	1,963,318人 (2014年末)	1,963,318人	1.00	観光誘客
一人当たりの観光消費額	379円 (2014年末)	379円	1.00	観光誘客
鉄道乗車人員数(10駅の1日当たり乗車人員の合計)	85,769人 (2013年度)	(2013年度:85,769人)	—	地域交流

## 12 宇治茶の郷づくり構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
茶生産額	70億円	65.9億円	0.94	地域ブランド化
宇治茶PRイベントへの集客数	8,203人	29,392人	3.58	地域ブランド化 観光振興
「宇治茶の郷メールマガジン」の登録者数	0人	560人	2.04	地域ブランド化

## 13 京都イノベーションベルト構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
企業の新規立地件数	21件	38件	1.81	ものづくり振興
製造品出荷額等 (京都市・山城地域)	40,958億円	(2011年度:40,958億円)	—	ものづくり振興
付加価値率(従業員4人以上) (京都市・山城地域)	34.9%	(2011年度:34.9%)	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)

## 14 学術研究・未来の都構想

指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
研究機関及び研究開発型企業の立地件数	60件	71件	1.18	価値創出(商品・コンテンツ開発)
海外のサイエンスパークとの交流活動回数	10回	13回	1.30	価値創出(商品・コンテンツ開発)
太陽光発電設置数	74件	254件	3.43	自然・環境・文化
HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)やBEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)の機器設置数	51件	231件	4.53	自然・環境・文化
電気自動車導入数	60台	100台	1.67	自然・環境・文化

## 15 環境・アグリバイオパーク構想

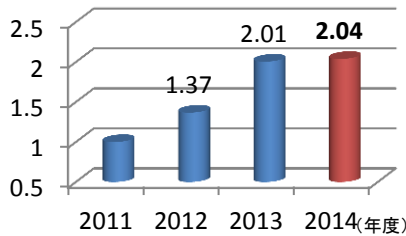
指標	基準値(2011年度末数値)	現状数値(2014年度末数値)	指数	分野
アグリバイオ関連研究機関及び研究開発型産業施設の立地件数(府域)	5件	5件	1.00	価値創出(商品・コンテンツ開発)
次世代型植物工場等における新製品・新技術等開発件数	0件	0件	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)
関連分野の研究者数	21人	21人	1.00	人材育成
アグリバイオ関連産業の生産高	0円	0円	—	価値創出(商品・コンテンツ開発)

## みやこ構想指標の進捗状況

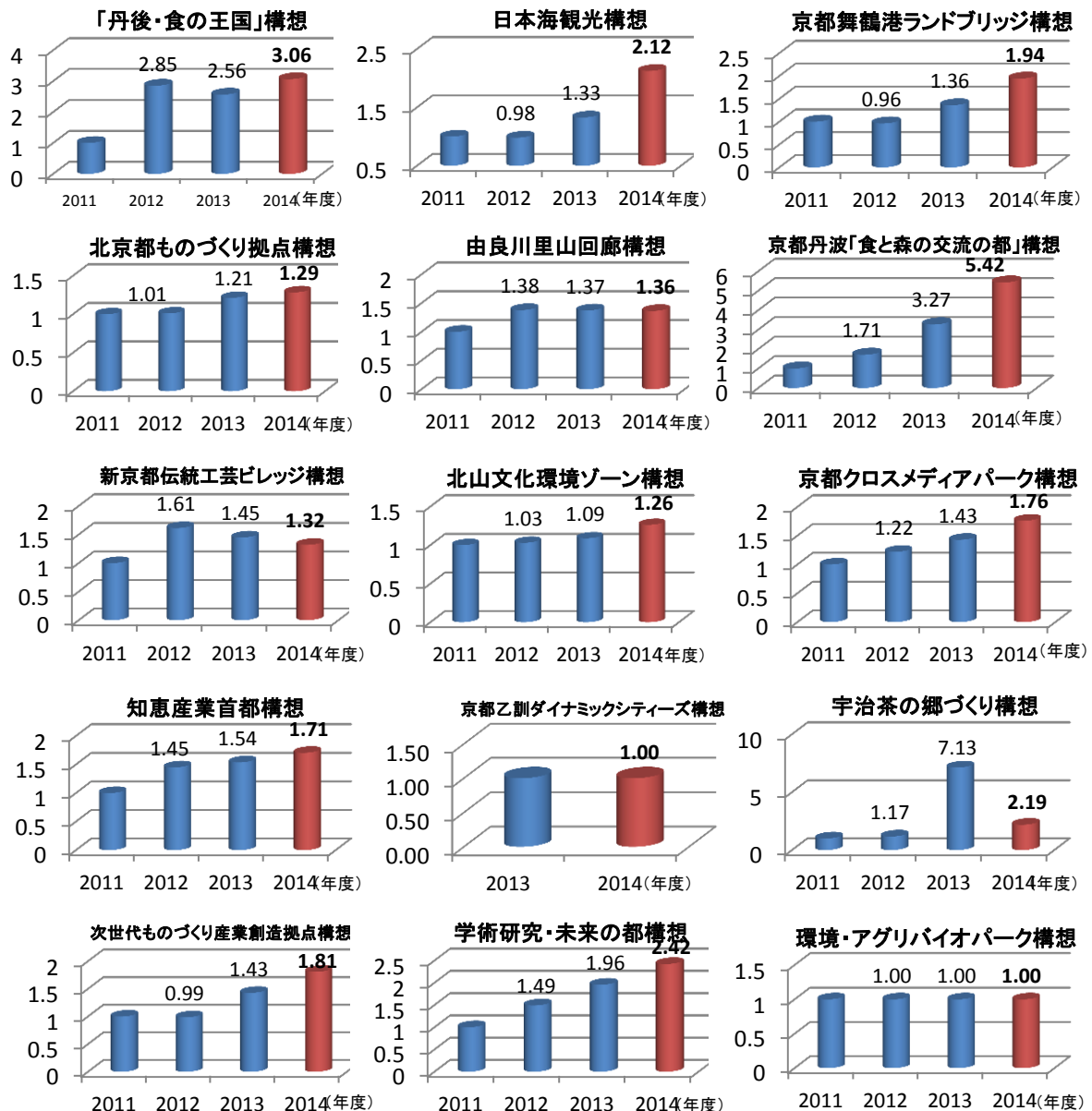
<2014年度の状況>

- ・「全体」では指数が2.04と、前年度から0.03ポイント上昇
- ・「構想別」では、新規の京都乙訓ダイナミックシティーズ構想を除き、10構想で指数が上昇、1構想で横ばい、3構想で下降
- ・「地域別」では、山城・乙訓地域を除く全地域で指数が上昇
- ・「分野別」では、「地域ブランド化」を除く全分野で指数が上昇

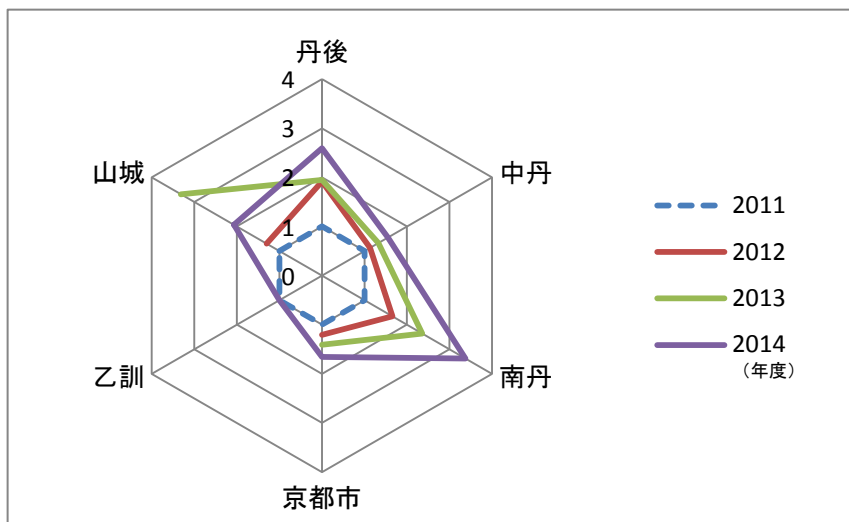
### 【全体】



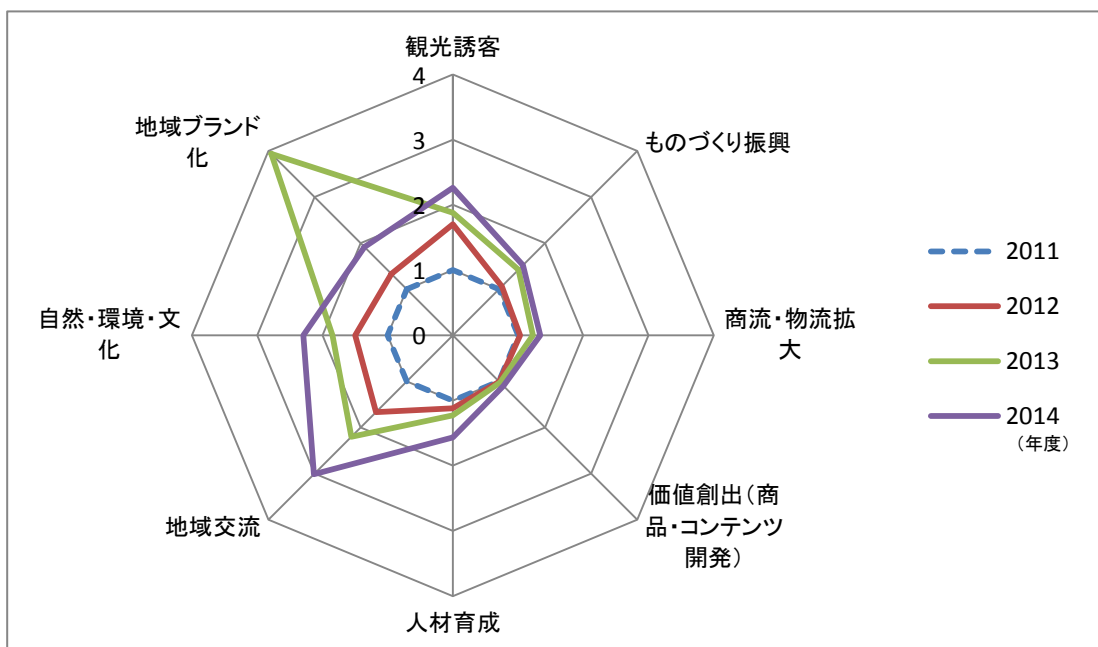
### 【構想別】



【地域別】



【分野別】



主たる影響分野			
観光誘客	ものづくり振興	商流・物流拡大	価値創出(商品・コンテンツ開発)
人材育成	地域ブランド化	地域交流	自然・環境・文化

## みやこ構想

### 1 丹後・食の王国構想

#### ①構想の概要

丹後・食の王国構想のもと、丹後の豊かな食材をいかし、高品質でブランド力の高い商品の開発など、食関連ビジネスの創出等を進めます。

#### <主たる目標>

- 京都「丹後」に行けば、四季折々の季節を感じる旬の野菜、新鮮なさかな等を味わうことができるというイメージが全国で定着し、丹後の食を味わうために多くの人々が丹後を訪れるとともに、「食関連産業」が地域経済を牽引する新たな産業として成長し、地域に定着する若者が年々増えていること

#### ②実施状況

#### <主な取組状況>

- 丹後「食」の10次産業化の展開  
[丹後王国「食のみやこ」を食の王国の拠点として整備]
  - ・10次産業化事業体（株）丹後王国の設立（平成27年1月30日）
  - ・10次産業化のための加工、調理等施設整備（～平成27年3月）[地域の「食」を支える様々な人材育成（4次産業）展開の具体化]
  - ・6次産業化人材育成仕組みづくりの支援
  - ・「高校生レストラン」の実施（平成26年10月19日／11月16日 7校）
- 食関連ビジネスの創出と拡大  
[丹後地域の「食」の魅力のPRと地域ブランディング]
  - ・丹後のたからもの展（平成26年10月1～7日 阪急うめだ本店 他3回）
  - ・「丹後長寿御膳・弁当」の普及促進、丹後食材のパンフ作成（フルーツ、地酒、水産物）、「丹後あじわい食」のクーポン掲載、地酒を活用した取組（13蔵試飲コーナーの設置・ツアー開発）等[食関連産業の連携・交流等による活動支援]
  - ・商談会出展（地方銀行フードセレクション他）
  - ・共同連携集出荷トライアルによる地域外への流通ルートの構築

#### <今後の課題>

- 高品質ながら流通に乗りにくい少量多品種農林水産物の活用
- 都市部からの誘客、丹後食材の外販の拡大
- 丹後の「食」を支える人材の育成
- 「食」関連事業の連携の拡大

### 2 日本海観光構想

#### ①構想の概要

山陰海岸ジオパークや天橋立等の自然、伊根の舟屋、ちりめん街道等の町並、ロマンあふれる丹後の歴史と文化などの資源をいかすとともに、「食」関連産業とのリンクにより、観光誘客を推進します。

### <主たる目標>

- 京都舞鶴港に毎年多くのクルーズ船が寄港するとともに、天橋立や伊根の舟屋、夕日ヶ浦やちりめん街道等の魅力ある観光拠点を擁する「海の京都」のエリアに国内外から多くの観光客が訪れ、日本海観光を満喫していること

### ②実施状況

#### <主な取組状況>

京都縦貫自動車道全線開通、舞鶴若狭自動車道の開通、京都舞鶴港の整備進捗、北近畿タンゴ鉄道の再生等による府北部地域への人・ものの流れの増大を最大限活かして、「海の京都」をテーマに、府北部地域を魅力ある観光圏とするため、観光関連事業を総合的計画的に実施

- 海の京都のコンセプトに基づく美観の向上
  - ・府北部5市2町において、「海の京都」統一コンセプトに基づく魅力ある景観形成に資する観光関連施設の外装改修等の修景に助成（13件）
- 「海の京都観光推進協議会」における事業の推進
  - ・丹後広域観光キャンペーン協議会を拡充・再編して設立した「海の京都観光推進協議会」において、観光地域づくりの取組を推進  
（主な事業：観光圏の総合的なマネジメント、ブランド観光地域づくり、周遊型滞在型観光地域創造事業、観光圏プロモーション）
- 「海の京都博（仮称）」開催準備
  - ・平成27年度の「海の京都博」開催に向け、実行委員会の立ち上げ、イベントの企画立案等、準備作業を実施
- TANTAN ロングライドの開催
  - ・平成26年6月に開催した「海の京都 TANTAN ロングライド2014」への参加者に対するおもてなし事業を実施（参加者：1,235人）
- 「海の京都観光圏」の認定
  - ・平成25年から、観光圏整備計画・整備実施計画づくりを進め、平成26年7月4日に認定
- 国際クルーズ等誘致
  - ・クルーズの寄港受入対応、環日本海クルーズ協議会による共同プロモーションの実施、船社や旅行会社へのプロモーション活動
  - ・国際フェリー航路開設に向けた船社との協議、国際フェリー就航のためのターミナル整備に係る協議

#### <今後の課題>

- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に、地域の魅力を発信し、歴史・伝統・文化・自然・産業等の地域資源を活かした質の高い観光や観光客満足度の高い観光の推進 等
- 京都舞鶴港の世界規模のPR、大型客船が寄港可能な港のスペック向上、大型客船入港に係る旅客の利便性向上、国際フェリーの延長運航に伴う集荷対策、港側の受入設備整備 等



### 3 京都舞鶴港ランドブリッジ構想

#### ①構想の概要

日本海側拠点港である京都舞鶴港を核として、関西一円とアジア・ヨーロッパ地域とを結ぶ壮大な国際ランドブリッジの形成をめざし、物流のルートを開拓・構築しながら、国際フェリーや外航クルーズの基地化・エコポートの推進、京都舞鶴港ベイサイドパーク内への企業誘致の促進などに取り組みます。

#### <主たる目標>

- 港湾周辺に物流関連企業の集積が進むとともに、京都府はもとより関西一円の企業が対岸諸国との取引に積極的に利用することで、京都舞鶴港が名実ともに関西経済圏における日本海側の物流・人流の中核拠点となっていること

#### ②実施状況

#### <主な取組状況>

- 国際フェリー（物流・人流）
  - ・ 航路開設に向けた船社との協議
  - ・ 国際フェリー就航のためのターミナル整備に係る協議
- 国際海上コンテナ（物流）
  - ・ 精力的な集荷活動等により、取扱コンテナ数 9,082TEU と過去最高
  - ・ ロシア航路のコンテナ化に向けたトライアル輸送実施
- 外航クルーズ（人流）
  - ・ 寄港受入対応
  - ・ 環日本海クルーズ協議会による共同プロモーションの実施
  - ・ 船社や旅行会社へのプロモーション活動

#### <今後の課題>

- 国際フェリー
  - ・ 平成 27 年 7 月に境港からの日韓露国際フェリー航路が舞鶴港まで延伸されたことに伴う集荷対策
  - ・ メインカーゴとなる貨物の安定化
  - ・ 旅客ターミナルなど港側の受入施設整備
- 国際海上コンテナ
  - ・ 集荷促進のための制度充実（阪神港の国際戦略港湾化への対応やインセンティブ制度創設）
  - ・ 戦略的な集荷活動の展開
- 外航クルーズ
  - ・ コンベンション参加や IT を活用した京都舞鶴港の世界規模の PR
  - ・ 大型客船が寄港可能な港のスペック向上、ターミナル機能の充実
  - ・ 大型客船入港に係るバース整備、ターミナル利用調整

### 4 北京都ものづくり拠点構想

#### ①構想の概要

福知山、舞鶴、綾部にある工業集積と、大学や高等専門学校等の人材育成機関をいかしながら、京都北部におけるものづくり産業の中核拠点の形成をめざし、企業活動

の支援やイノベーションによる企業成長支援、新たな企業の誘致、高度なものづくり人材の確保・育成、産学公連携共同研究開発の促進などに取り組みます。

#### ＜主たる目標＞

- 技術力の高い特色ある中小ものづくり企業が集積し、府北部地域の大企業や京都イノベーションベルト等に立地するベンチャー企業等と緊密な協力関係を構築するなど、京都のものづくり産業にとって不可欠な地域を形成するとともに、農林水産物等の資源とものづくり技術の融合により新商品開発を図る農工連携ビジネスの一大拠点となっていること

#### ②実施状況

##### ＜主な取組状況＞

- 中丹地域において関係団体と協力し、様々な人材育成研修を実施
  - ・セミナー等参加者 延べ4,028人
- 中小企業技術センター中丹技術支援室にて技術相談等を実施
  - ・利用人数 1,811人
- 中小企業技術センター中丹技術支援室にて企業が連携して製品開発に取り組む研究会を定期的に行い、企業の新たな分野展開を支援
  - ・試作品完成数 3件（製品化研究中を含む）
- 情報交換を密にした上で企業マッチング商談会を実施することにより、高い商談成立率を達成
  - ・商談会開催回数 5回、参加企業数 延べ15社、商談成立数 8件
- 産学連携コーディネートにより、企業の持つ課題を大学のシーズにより解決
- 中丹地域企業立地件数 6件

##### ＜今後の課題＞

- 研究開発を行う中小企業が極めて少ないため、企業のレベルアップ、イノベーションに向けては段階的な取組が必要
- 地域にて人不足感が高まっており、人材育成に関しては、研修に派遣する人の確保が難しくなっている。

## 5 由良川里山回廊構想

### ①構想の概要

中丹地域にある海、川、里、山、歴史、風土、伝統、文化等の資源をいかし、人、もの、情報などのネットワークの「回廊」の形成を目指しながら、自然や人々の絆を大切に、都市との交流の促進、農林水産業、ものづくり産業、観光やニューツーリズム振興などに取り組みます。

#### ＜主たる目標＞

- 日本有数の清流を誇る由良川流域に点在する日本の原風景ともいべき里山の保全・再生や、日本人の生活文化を象徴する豊かな里山文化の振興が図られるとともに、里山をつなぐ美しい回廊が形成され、新しい観光スタイルの創出により交流人口が増加していること

#### ②実施状況

##### ＜主な取組状況＞

- 里山を結ぶ京都『ゆらり』サイクリングロードの活用

- ・京都『ゆらりー』サイクリングロード（概成）
- ・新しい観光スタイル「海の京都」スポーツ・トレイルの推進  
（モデルコースの5コース設定、推進連絡協議会の設置）
- 里山の景観保全と体験交流拠点づくり
  - ・農家民宿の開業支援（民宿3軒）
  - ・中丹の暮らしぶりを見学する体感ツアーの実施（参加者数20名）
  - ・捕獲された野生鳥獣の有効活用、ジビエフォーラム、ジビエフェア等の開催  
（ジビエ料理提供店28店舗）
  - ・企業等と連携したモデルフォレスト運動の推進（参加者数534名）

＜今後の課題＞

- 京都『ゆらりー』サイクリングロードの認知度が低い。
- サイクリングロードと観光資源を組み合わせた効果的プロモーションが必要
- 里山の保全・活用と地域の活性化に向けた取組が必要

## 6 京都丹波「食と森の交流の都」構想

### ①構想の概要

芦生原生林や里山等の豊かな自然や丹波黒大豆や京野菜、丹波くりのような京の食文化を支える高品質な農林畜産物等の豊富な地域資源を総合的にいかして、これまでの都市・農村交流の取組をさらに促進し、交流人口の拡大や京都丹波産農林畜産物の生産・販売拡大による地域の活性化をめざします。

＜主たる目標＞

- 丹波黒大豆や京野菜、丹波くりに代表される山や里の恵み、豊かな自然、伝統文化などの地域資源をいかし、教育体験旅行をはじめとして、農家民宿、農家レストラン、クラインガルテンの開設などが進み、都市・農村交流の一大拠点となっていること

### ②実施状況

＜主な取組状況＞

- 「食」に関わる交流イベント等を京都丹波全域で展開
  - ・京都丹波 EXPO、振興局マルシェ、京丹波食の祭典等、道の駅の「七彩駅弁」やスイーツ開発、農産物直売所クイズラリー、京野菜を巡るツアー など
- 「京都丹波・食と森の交流協議会」を核に推進し教育体験旅行拡大

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
受入人数（人）	340	620	1,395	1,966
うち宿泊（人）	—	—	（試行）72	180

- 交流拡大の環境整備
  - ・農家民宿や農家レストランの開設支援（5件）
  - POS導入など農産物直売所の機能強化（5件）
  - ・山の家や農家民宿などを活用して農村・農業体験を行う「京都丹波交流滞在型クラインガルテン」実現に向け研究会立ち上げ
  - ・教育体験旅行受入農家等拡大（74戸増加 累計148戸）
- 新たな交流商品づくり

- ・「食」を活用した薬膳料理村歩きツアーなどプログラム開発（5件）
- 情報発信強化
  - ・教育体験旅行の学校校長会や旅行会社への営業強化
  - ・芦生の森エコ観光のPR強化

#### <今後の課題>

- 森の京都づくりや京都縦貫自動車道開通、国定公園指定、全国育樹祭等と連携した交流拡大・情報発信強化
  - 京都丹波の資源（たから）を生かした都市農村交流ビジネスモデルの構築
  - 「京都丹波・食と森の協議会」を京都丹波版“DMO”※として着地型観光を企画・運営できる自立組織にステップアップ
- ※ DMO：Destination Marketing/ Management Organization

## 7 新京都伝統工芸ビレッジ構想

### ① 構想の概要

民間の活力をいかし、平成24年4月に開学した京都美術工芸大学や京都新光悦村に立地する企業等の産学連携などを進め、京都丹波地域に、人づくりからものづくりまでを担う伝統工芸の新しい拠点を形成します。

#### <主たる目標>

- 京都新光悦村の全体が、企業の生産拠点や販売・体験施設、芸術家や職人の工房等で埋まり、伝統工芸の匠の技とハイテクの融合により、新しいタイプの製品等が生まれ、国内外から訪れる多くの観光客で賑わうとともに、京都新光悦村や京都美術工芸大学を核として、海外の作家やデザイナー等との交流事業が盛んに行われ、国際的な工芸村を形成していること

### ② 実施状況

#### <主な取組状況>

- 京都新光悦村活性化推進プロジェクトの開催
  - ・構成：井筒八ッ橋、(学)二本松学院、南丹市、染織・工芸課、産業立地課、産業労働総務課、南丹振興局
  - ・開催状況：平成26年10月8日/11月7日、平成27年2月24日
  - ・内容：大琳派祭、森の京都クラフトモール事業での連携、井筒八ッ橋通年行事との連携 等
- 拠点整備に向けた産学コラボ  
[産学連携による商品開発（伝統産業若手育成事業）]
  - ・内容：園部の(財)京都伝統工芸産業支援センターを中核とし、京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校と高島屋京都店とが産学連携し、百貨店で食器を購入する客層（親子連れ）に対するモニタリング調査の結果も踏まえ、「丁寧に作られた食器で大切に食べる」という基本コンセプトに基づき、親子向けの食器類（木工芸、陶製、金属製）とともに、贈答品対応を想定したパッケージも開発
  - ・成果：新たな定番商品として、平成27年夏以降に期間限定販売を実施予定。ネット通販についても27年度中に実施予定

## ＜今後の課題＞

- 森の京都クラフトモールの形成
  - ・ 森の京都クラフトモールを形成するため、エリア内の職人、作家等のニーズ把握とネットワーク構築、京都新光悦村での中核拠点の整備や美術工芸品修理の推進
- 産学コラボ機能の具体化
  - ・ 平成 24 年度に産学コラボにより高島屋京都店と商品開発し、26 年度に高島屋京都店で期間限定販売（テスト販売）を実施。27 年度はさらに関係を深めるとともに、他企業との新たなネットワーク構築の推進と学生の就職に向けた取組を充実
- 新光悦村の基盤・環境整備
  - ・ 土砂災害に対する安心・安全の確保と企業ニーズに合致した面積及び形状の用地の確保

## 8 北山文化環境ゾーン構想

### ① 構想の概要

北山地域において、国際京都学センター（仮称）を新たに設置する新総合資料館（仮称）、教養教育共同化施設、府立植物園を核として、府民の憩いの場とともに、文化・環境・学術の新たな交流・発信拠点となるゾーンを形成します。

### ＜主たる目標＞

- 国際京都学センター（仮称）や新総合資料館（仮称）、教養教育共同化施設、府立植物園などの府民開放型の各施設やレストラン、カフェショップなどに、多くの府民が気軽に立ち寄り、豊かな自然の中で、文化、環境、学術に親しむことのできる新しい交流・発信拠点となっていること。

### ②実施状況

#### ＜主な取組状況＞

- 新総合資料館（仮称）の整備を推進（工期を平成 28 年 3 月 24 日に延長。地下躯体工事がほぼ完了し、鉄骨工事中）
- 国際京都学センター（仮称）の開設に向け準備
  - ・ 準備体制構築（特別参与設置（平成 26 年 4 月～）：金田章裕 前人間文化研究機構長、本庁に国際京都学センター担当組織を設置（平成 26 年 5 月～））
  - ・ 国内外のネットワークづくり推進（海外の日本研究機関（米国コロンビア大等）、国内（府内大学、陽明文庫等））
  - ・ ミッションステートメント（案）の策定
- 府立植物園を「魅力あふれる施設」とするため、ハードソフト両面の取組推進（目標の 90 万人に迫る入園者数 887,168 人、2 年連続 80 万人超）
  - ・ せせらぎの道整備（紅葉の散策路）、クスノキ並木再生、園路舗装、多言語対応案内板
  - ・ 開園 90 周年記念事業（京都さくらよさこい、ディズニーセレブレーション、花と緑の園芸フェスティバル、植物園マルシェ、ガーデニング・コンテスト等）
  - ・ ファンクラブ創設、オフィシャルパートナー協定締結、公式ロゴマーク制定、3

園（動物園、植物園、水族館）連携等

- 教養教育共同化施設が平成 26 年 6 月末に完成、後期から 3 大学による教養教育共同化科目を共同化施設で開講
- 北山文化環境ゾーンの文化施設等が連携し、各施設等の特長を活かした取組を行い、施設等が連携協力して情報を広く発信するために、北山文化環境ゾーン交流連携会議を設置（平成 26 年 9 月）

#### <今後の課題>

- 新総合資料館（仮称）をはじめとする各施設について、文化・環境・学術の拠点の創造に相応しい整備の推進
- ハードの整備を有効活用するためのソフト戦略の方針決定
- 現総合資料館跡地の利活用等に向けた整備検討

## 9 京都クロスメディアパーク構想

### ①構想の概要

太秦地域に映画制作・編集・配信等の技術開発や、コンテンツ系ベンチャーの育成支援、国際交流、観光振興、人材育成等の機能をあわせ持つ一大メディア産業拠点を形成します。

#### <主たる目標>

- 映画・アニメ・ゲームなどクロスメディア分野の企業が数多く集積し、世界の市場の中で、京都が独自のマーケットを確立するとともに、エリア内では、国内外から多くのクリエイターが集い、メディア間の交流により新しいコンテンツが生み出され、世界に発信されていること

### ②実施状況

#### <主な取組状況>

- KYOTO CMEX 2014 の開催によるクロスメディア展開、国際交流、人材育成、マーケット開拓を促進
- 国内外のクリエイターを集めた若手人材育成ラボの実施
  - ・ 京都若手才能育成ラボ（フィルムメーカーズラボ）  
参加者：20 名（44 ヶ国 170 名の応募から選考）
- 映画企画市の開催及びパイロット版の製作
  - ・ 京都映画企画市 応募数 20 件  
優秀賞『ゆるキャラ親分♡』 企画者：東映京都撮影所助監督  
（パイロット版改題『一匹の親分 マタタビ地獄篇』）
  - ・ 前年度作品『Ghost Dolls』等の報告会（プロモーションの実施）  
<東京・京都の 2 ヶ所>
- 京都クロスメディア・クリエイティブセンター（KCC）の設置運営による人材育成及びコンテンツ関連企業支援
  - ・ インキュベーション入居者 9 者・社（平成 27 年 3 月末現在）
- 「ロケスポット京都」によるロケ地の情報発信及び府内市町村の連携強化
  - ・ 北京都ロケーションネットワーク<舞鶴市・京丹後市・福知山市>設立  
（平成 27 年 1 月）

- 「京都チャンネル（仮称）」（動画で観光や物産情報など、京都に関する様々な情報や魅力の総合発信） ネット放送局の創設へ向けた検討

#### ＜今後の課題＞

- 太秦を核とした産学公連携による京都クロスメディアパーク構想の具体化
- 次世代を担う人材育成と市場開拓
- 国家戦略特区を活用した事業展開
- 時代劇の後継者育成、オープンセット用地の確保

## 10 知恵産業首都構想

### ①構想の概要

次代を切りひらく産業イノベーションをリードする「京都産業育成コンソーシアム」を創設し、知恵を集め、知恵を学び、知恵をいかす中小企業が元気に世界で活躍する知恵産業のまち・京都を形成します。

#### ＜主たる目標＞

- 中小企業をはじめとする多くの京都企業が、独自のオンリーワン技術に磨きをかけ、オンリーワン製品を創造したり、業界・業種を超えたコラボレーションにより、現代のライフスタイルに適合した新しいサービスを提案するなど、京都産業全体で「知恵」をいかしたビジネスが実践されていること

### ②実施状況

#### ＜主な取組状況＞

- 京都ブランド推進事業・中小企業総合応援事業（知恵ビジネス成長支援事業）  
[知的財産活用の推進（知的財産総合サポートセンター活動）]  
・相談員相談 246 件（平成 25 年度：208 件）  
・弁理士相談 105 件（平成 25 年度：91 件）  
・弁理士府内巡回相談 45 件（平成 25 年度：45 件）  
[成長ステージに応じた企業支援（「知恵の経営」等の取組）]  
・知恵の経営認証（強みの発掘） 14 件（平成 25 年度：21 件）→累計 141 件  
元気印認定（強みの活用） 32 件（平成 25 年度：18 件）→累計 177 件  
経営革新承認（強みの活用） 22 件（平成 25 年度：29 件）→累計 583 件  
合計 68 件（平成 25 年度：68 件）→累計 901 件  
・知恵ビジネスプランコンテスト認定 6 件（平成 25 年度：6 件）→累計 36 件  
\* 京都知恵産業支援共同事業 応募 110 件→採択 48 件  
[京都ブランドの推進（京都ブランド推進連絡協議会推進事業）]  
・「Kyoto Japan」ロゴマーク登録 34 件→累計 189 件  
・「京・知恵舞台」（セミナー、展示等）平成 27 年 2 月 18～19 日開催、140 名参加
- みやこ構想セカンドステージ加速化推進事業  
・応募 9 件→採択 7 件（補助金額 71 百万円）
- 「京の老舗」知恵の経営発信事業  
・「老舗の真髓展」（講演、展示等）平成 27 年 2 月 28 日開催、63 名参加  
・大学等との交流（龍谷大学コラボ講義、事業承継学会等）8 回

### ＜今後の課題＞

- 京都産業のより多くの分野で知恵を活かしたビジネスが実践されるよう、関連施策の連携による効果的な普及と、大学のシーズや老舗企業の持つ経営資産など、京都の誇る優れた知恵を活用した産業分野全体の更なる高付加価値化の促進

## 11 京都乙訓ダイナミックシティーズ構想

### ①構想の概要

京都市に隣接し、竹をはじめとする豊かな自然や優れた歴史文化資産、世界的な先端企業の立地に恵まれるとともに、京都第二外環状道路（にそと）・京都縦貫自動車道の開通等により、府域の東西南北を結ぶ新たな交通の要衝地になりつつある乙訓地域に、観光、産業等の高次都市機能が集積し、向日市・長岡京市・大山崎町の都市連携により、京都府の新たな成長核としてダイナミックに発展する圏域を創出します。

### ＜主たる目標＞

- 淀川三川合流地や西山の竹林、洛西散策の森等の自然、長岡京跡や大山崎山荘等の歴史文化資産、世界有数の先端企業、キリンビール京都工場跡地の大規模商業施設、向日町競輪場、激辛食で有名な商店街など、この地にある多様性に富んだ地域資源が有機的に連結され、観光やビジネス等で多くの人々が行き交い、躍動感あふれる都市圏が形成されていること

### ②実施状況

#### ＜主な取組状況＞

- 乙訓「若竹」産業創造プロジェクトを立ち上げ、「竹を活かす」、「竹を魅せる」、「竹を護る」をテーマに検討を開始
  - ・ 推進会議 3回開催
  - ・ JA 京都中央が補助事業を活用し竹チップ導入、竹の回収と試験運用開始（平成 27 年度～本格実施）
- 京都・西の観光推進協議会による広域観光を展開
  - ・ 京都・西の観光魅力 PR 展（イオンモール京都桂川）（平成 27 年 1 月 24～25 日）
  - ・ プレミアムツアー「錦水亭、竹御膳と乙訓の至宝に触れる特別な旅」（平成 27 年 2 月 22 日／3 月 8 日）
  - ・ ミステリークイズラリー乙訓歴史探訪（平成 27 年 3 月 21 日）

### ＜今後の課題＞

- 重点事業に位置付ける「世界的なものづくり企業の集積等をいかし、伸びゆく若竹のごとく、新しい産業の創出」に向けた取組が必要

## 12 宇治茶の郷づくり構想

### ①構想の概要

日本を代表するブランドである宇治茶を核として、JR 奈良線の複線化とタイアップしながら、観光振興、ブランド農産物輸出、集客ビジネスなどを一体的に推進します。

### ＜主たる目標＞

- 宇治茶の歴史、文化、美味しさ、効能などが国内外に浸透し高く評価され、生産が拡大することにより茶農家の所得が向上するとともに、美味しいお茶とお茶の文化



を堪能できるイベントにより「お茶のまち」としてのイメージが全国で定着し、多くの観光客で賑わっていること

## ②実施状況

### <主な取組状況>

- 香り高い宇治茶の生産振興の推進
  - ・「宇治茶 GAP」の導入に向けて関係機関と指導体制の充実を図り研修会等により製茶工場への導入を促進
  - ・伝統的「本ず」手法等による宇治茶栽培方法の推進
  - ・計画的な優良品種への新植及び改植を推進（17ha）
- 宇治茶の歴史と文化の再発見運動の推進
  - ・小学生を対象とした「キッズ『茶ムリエ』」検定の実施（認定者 147人）
  - ・世界文化遺産登録等の推進を目指した「宇治茶」まつりの実施（参加者 約18,000人）
  - ・宇治新茶 八十八夜茶摘みの集い（参加者 約3,000人）
  - ・宇治茶カフェスタンプラリーの実施（参加者 483人）
  - ・「京都やましろスイーツパスポート」の実施
- 宇治茶の郷からの情報発信
  - ・世界文化遺産登録に向けた情報発信を含めた「宇治茶の郷メールマガジン」の発信（毎月1回発信）
  - ・「京都山城宇治茶の郷めぐり2014」の発行（25,000部）
  - ・世界文化遺産登録等に向けて新たな宇治茶ファン獲得に向けた「フェイスブック」の発信
- 宇治茶の魅力を活かした観光づくりの推進
  - ・「宇治茶歴史街道ウォーク」で宇治茶体験の実施支援
  - ・「宇治茶かおり回廊」推進による景観に配慮した街道整備

### <今後の課題>

- 香り高い宇治茶の生産振興の推進
  - ・宇治茶が海外輸出に向けた基準に適合させていくことが必要
  - ・宇治茶の一層のブランド化
  - ・宇治茶の新しい商品開発・販売の確立
- 宇治茶の歴史と文化の再発見運動の推進
  - ・「お茶の京都」づくり構想と一体となった取組の推進
  - ・宇治茶の消費拡大に向けた事業効果の把握
  - ・宇治茶の魅力等を発信する地域及びターゲット層の特定
- 宇治茶の魅力を活かした観光づくりの推進
  - ・世界文化遺産登録に視野を向けた観光づくりの推進
  - ・地元住民に対する日本遺産の認知度向上

## 13 京都イノベーションベルト構想

### ①構想の概要

地域の企業間の連携を進め、高度な技術と国際的な競争力を備えた製品開発などを

重点的に支援し、京都経済の牽引エリアとしての一層の成長を促進します。

#### <主たる目標>

- 人口当たり日本一の大学設置数を誇る京都の特性を最大限いかし、京都市域から学研都市に至る地域にベンチャーから中小中堅、大企業まで、絶え間ないイノベーションに取り組むものづくり企業が数多く進出・立地し、次代の京都経済・産業を牽引する地域として発展していること

#### ②実施状況

##### <主な取組状況>

- けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）関係
  - ・ 研究活用計画の公募実施により 3 事業者が入居表明
  - ・ KICK への入居を目指す 15 の KICK・大学発プロジェクトチャレンジチームを形成
- 京都イノベーション推進拠点関係（京大 C01 関係）
  - ・ 京都大学国際科学イノベーション棟の完成
- R&D 企業の誘致
  - ・ 新たに海外企業 3 件、国内企業 38 件が立地
- その他
  - ・ 国家戦略特区（府関係）で 2 件の区域計画を国が認定
  - ・ 各種の研究開発補助等による支援実施
  - ・ 京都産学公連携機構にワーキンググループを設置し、取組方策を検討

##### <今後の課題>

- KICK への共同研究プロジェクト等の集積促進等
- 京大 C01 事業の推進と拠点機能の発揮等

## 14 学術研究・未来の都構想

### ①構想の概要

関西文化学術研究都市において、世界レベルの情報や環境、健康（医療）、農業（食）などに関する科学技術の粋を結集し、科学技術と生活文化が融合した新たな都市を創造します。

#### <主たる目標>

- 情報、環境・エネルギー、健康・医療等の分野における研究機関等が数多く立地し、最先端の科学技術やシステムを社会・生活に取り入れた未来都市が形成されているとともに、地域のエネルギー利用の最適化を図るマネジメントシステムの導入が進み、世界の環境・エネルギー問題の解決に貢献するモデルとして国内外に発信されていること

### ②実施状況

#### <主な取組状況>

- スマート、スリムでかつ快適な世界都市モデル「けいはんな e2 未来都市」づくりの推進
  - ・ HEMS 機器、創エネ機器等設置支援：65 戸
  - ・ エコシティ推進会議の運営

- ・体験・学習ゾーンの整備運営
- 旧「私のしごと館」を活用した「けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK)」の整備
  - ・3件の研究活用計画を認定
  - ・「KICK・大学発プロジェクトチャレンジチーム」の結成
  - ・施設活用団体を「京都産業21」に決定
- 「京都スマートシティエキスポ 2015」(平成27年5月開催)開催に向けた広報等の実施
- 企業立地セミナー in 東京の開催(平成26年11月)

#### <今後の課題>

- 地方創生とそれを支える地域の産業創生のモデルとなるスマートシティづくりの推進
- 次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクトの終了後のエネルギーマネジメントシステム実装に向けた取組の推進
- 産学公連携による「けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK)」の運営体制の構築

## 15 環境・アグリバイオパーク構想

### ①構想の概要

関西文化学術研究都市において、環境・アグリバイオの研究拠点を整備し、関連する研究機関や研究開発型産業施設が集積する国際研究開発拠点を形成します。

#### <主たる目標>

- 関西文化学術研究都市内に立地する植物工場やバイオ関連の企業・研究機関、京都府立大学や京都大学の農場等で、アグリバイオを活用した新しい工業材料や医薬品などの研究開発や生産が活発に行われ、日本におけるアグリバイオの一大拠点となっていること

### ②実施状況

#### <主な取組状況>

- 次世代型植物工場での実証・研究開発の推進
  - ・府立大学精華キャンパス内の次世代型植物工場を中心とした実証実験及び高機能性野菜の研究開発を推進
- サントリー、大幸薬品、京大農場立地に向けた側面支援
  - ・円滑な移転のための側面支援、アグリバイオ分野の研究促進に向けた調整の実施

#### <今後の課題>

- 府立大学の取組をパイロットモデルとして事業化、関西文化学術研究都市内への立地、海外展開等に向けた民間企業との連携方策の確立
- 立地後におけるアグリバイオ分野の研究促進・連携強化に向けた関係機関等との調整



## 4 3つの京都づくり

京都府では、中期計画及び地域振興計画の主要プロジェクトである「みやこ構想」の進展を踏まえ、広域的に地域のコンセプトを明確にした「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」づくりの3つの京都プロジェクトを推進し、府域の均衡ある発展のためのスケールの大きな交流を展開することとしている。

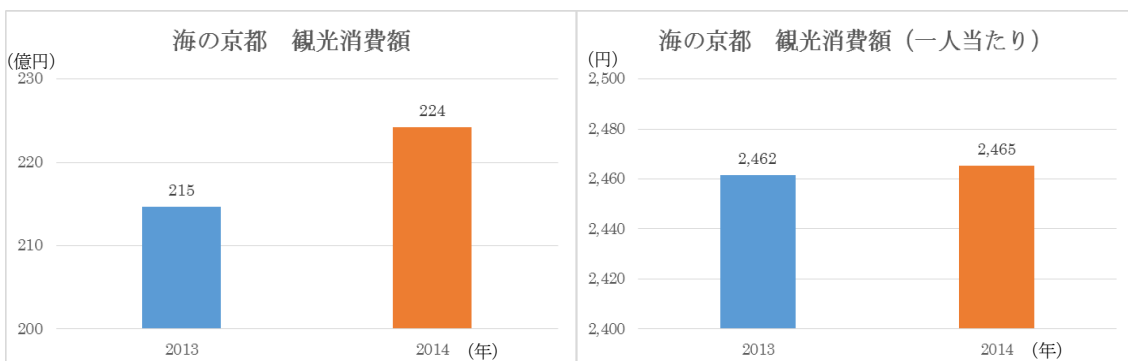
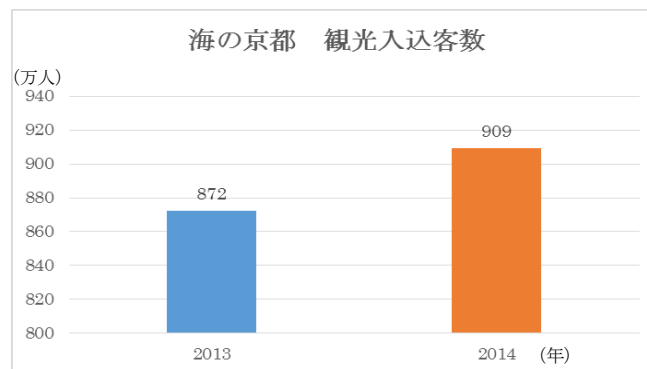
以下には、3つの京都プロジェクトに関連する指標の状況やプロジェクトの取組状況、今後の課題を示す。

### 「海の京都」づくり（京都の海を活かした取組）

#### 1 構想の概要

古代より大陸との交流の窓口として栄えた歴史的背景や交通基盤整備の進捗を活かし、「海」というキーワードのもと、府北部地域が全国有数の競争力のある観光圏となることをめざします。

#### 2 関連指標の状況



### 3 実施状況

#### ①主な取組状況

- 海の京都プレイベント「海フェスタ京都」の開催  
・平成26年7月19日～8月3日の15日間で140万人が来場
- 丹後王国「食のみやこ」のリニューアルオープン  
・西日本最大級の道の駅として平成27年4月19日オープン

#### ②今後の課題

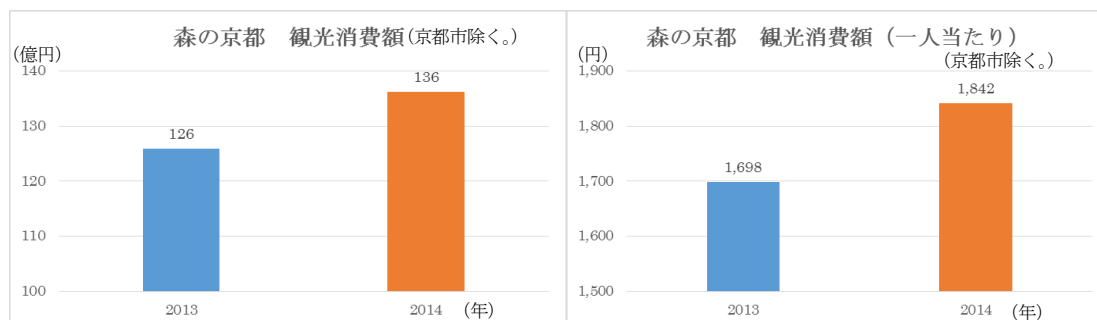
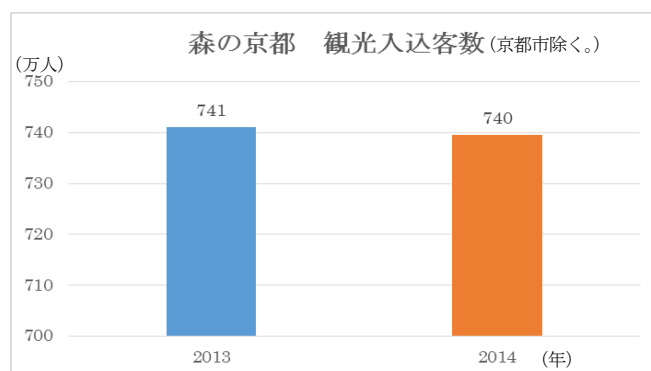
- 観光振興戦略拠点の整備と拠点間のネットワーク強化
- 「丹後王国『食のみやこ』」を中核とした「食」の拠点づくり
- インバウンド対策の推進
- 海の京都博の成功と広域観光プロモーションの展開
- ブランド観光地域の認定（平成31年度）等

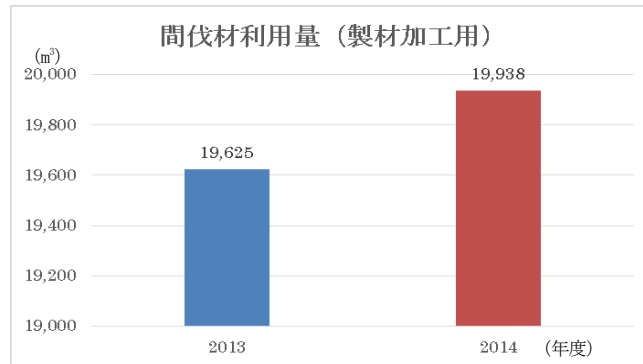
## 「森の京都」づくり（奥の深い森や里山を活かした取組）

### 1 構想の概要

我々の生命を育む源でもある「森」をテーマにし、森・川・里の織りなす景観や環境・文化・生活を多面的な角度からとらえ未来に受け継ぐとともに、発信し、多角的に活かす地域となることを目指します。

### 2 関連指標の状況





### 3 実施状況

#### ①主な取組状況

- 「森の京都推進会議」の設置（平成26年10月）
- 「森の京都構想」の策定（平成27年6月）
- 丹波広域基幹林道の全線開通
- 国定公園指定に向けた芦生の森の再生計画策定

#### ②今後の課題

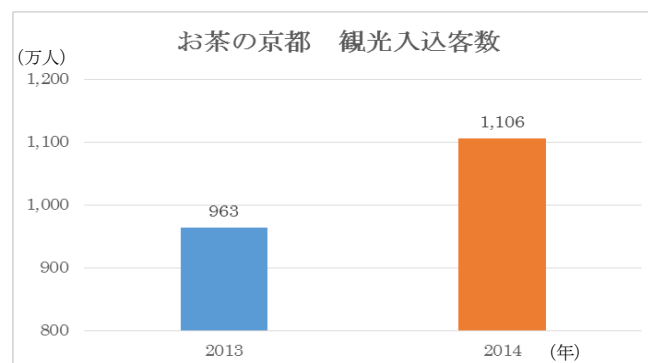
- 国定公園の新規指定等を契機とした豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全
- 「森の京都」スタイルの生活の再定義・発信
- 森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくり
- 「森の京都」の魅力の効果的プロモーション・観光誘客の推進 等

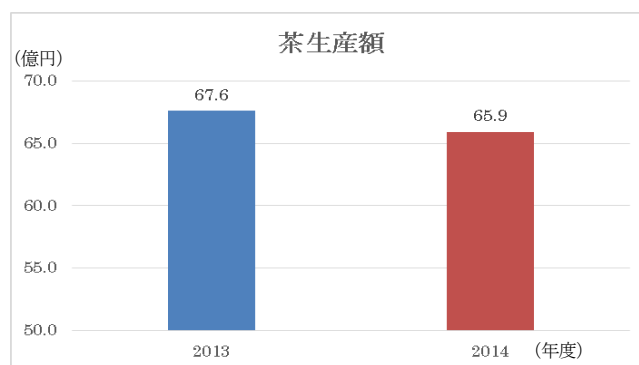
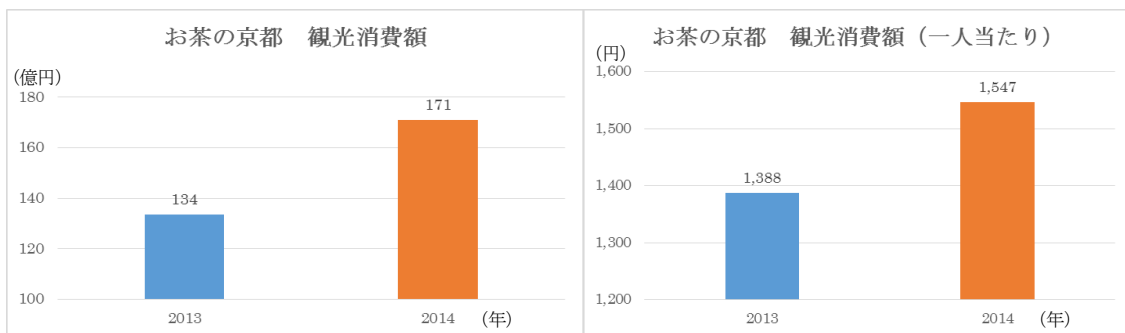
## 「お茶の京都」づくり（宇治茶生産の景観を活かした取組）

### 1 構想の概要

我が国で最も長い歴史を有する茶生産地であり、今なお素晴らしい景観を形成し、最高品質の緑茶を産出する地において、宇治茶をテーマに、お茶生産の美しい景観維持やお茶文化の発信等を通じ、人やものの交流が盛んな地域となることをめざします。

### 2 関連指標の状況





### 3 実施状況

#### ①主な取組状況

- 「お茶の京都推進会議」の設置（平成26年10月）
- 「お茶の京都構想」の策定（平成27年6月）
- 茶業研究所の整備基本計画の策定
- 「宇治茶かおり回廊整備マスタープラン」（案）の策定（平成27年3月）

#### ②今後の課題

- 宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承
- 交流エリアの創出、ネットワーク化
- 茶業研究所を核としたお茶産業のイノベーション創出
- 宇治茶のブランド強化
- 宇治茶文化・魅力の効果的プロモーションと観光誘客 等